

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : メンフィス大学

留学期間 : 平成 27 年 8 月 20 日 ~ 平成 28 年 5 月 25 日

2015 年 8 月～ 12 月の Fall Semester(秋学期)は、IEI(Intensive English for Internationals)の英語集中コースに所属し、必修授業として Reading・Writing、Grammar、Listening・Speaking、選択授業で Basic Pronunciation、Advanced Pronunciation の授業を履修していました。IEI はレベル 1～6 までの 6 クラスに分けられ、半年に一度、レベルアップテストがありました。私はレベル 3・4 のクラスに秋学期は所属していました。クラスメートには日本人の他に、中国、韓国、エジプト、コスタリカ、サウジアラビア、パキスタンからの留学生がおり、毎日他国の文化や考え方を学びながら授業に参加していました。また、Reading の授業では、朗読、小説の要約、パラグラフ、記述など、難易度の高い分野にも挑戦しており、Listening・Speaking の授業では、自身の家、自国の有名人、文化などの紹介をパワーポイントを使っての 5 分程度のプレゼンテーション、TED の動画を見て、それに対する自身の意見をパラグラフ化し、クラスメートとディスカッションなどをしました。Grammar の授業では、中学・高校で学習した基本文法を再度復習しながら、日本ではあまりなじみのない発展文法にもチャレンジし、文法力の向上を図っていました。毎日、全ての授業で多くの宿題が出されるため、平日は、ほとんど自由時間がなく、宿題に追われる日々でしたが、毎日とても充実していました。私は、メンフィス大学の寮(Carpenter Complex)に住んでいたため、掃除、洗濯、食事など家事は全て自身でやっていました。限られた時間の中で、家事をしながら勉強もしなければならぬため、時間の大切さを改めて痛感させられました。週末は、勉学の他に現地のアメリカ人と交流、買い物、パーティー、ボランティアなどに参加し、積極的にコミュニケーションを図り、語学力向上に努めました。アメリカで一番気をつけていたことは食事面です。アメリカの食べ物は、日本食に比べ、カロリーが非常に高いため、太りすぎないように、普段の食事は日本食を作るよう心がけ、少し時間に余裕がある時には、大学のジムへ行き、適度な運動をし、健康を維持するよう努めていました。

1 ヶ月間の冬期休暇を終え、1 月下旬からは、春学期(Spring Semester)が始まりました。私は、Fall Semester(秋学期)に引き続き、IEI(Intensive English for Internationals)のレベル 5・6 のクラスに所属し、必修授業として、Reading/Writing、Grammar、Listening/Speaking、選択授業として Advanced Conversation・Newspaper の授業を履修しました。どの授業も春学期に比べ、かなりレベルが上がり、春学期以上に多忙な日々を送っていました。Reading/Writing の授業では、アカデミックの論文を読み、要約やエッセイを中心に書き、帰国直前には、「日本の英語教育の必要性」をテーマに論文を書き上げました。Grammar の授業では、応用問題・発展問題を中心に普段あまり使うことのない文法を学び、Listening/Speaking の授業では、毎回担当の先生が差し出すカードを 1 枚引き、カードに書かれた内容(例：大学生活、ボランティア活動など)に対して、1～2 分間、クラスメート

の前で、自身の意見を発表するようなミニプレゼンテーションから、本格的なプレゼンテーション(5分～8分)にチャレンジし、帰国直前には、「自身の逸話」をテーマにクラスメートの前で、スライド・原稿なしの10分間話し続けるプレゼンテーションも行いました。また、Advanced Conversationの授業では、会話でよく使われる表現、話を続けるための極意など、普段の生活には欠かせないコミュニケーションスキルを学び、実際に街に出て、メンフィスの住民と交流しました。Newspaperのクラスでは、講師の方から毎週与えられたテーマに対し、自身のオリジナルの新聞を作成しました。また、帰国後、就職活動を控えていたため、冬休みから帰国直前まで、企業研究、自己分析、エントリーシートの作成を上手く時間を見つけないで、行っていました。卒業論文では、日本とアメリカの実験結果を比較する国際研究を予定しているため、日本で実施予定の実験(間違い探し・計算問題)の英語版を作成し、アメリカ人に協力を呼びかけ、データを収集し、アメリカ人の実験結果をエクセルで分析していました。

私にとっての留学の成果は、兼ねてからの自身の夢であったアメリカ留学を大きなトラブル、病気もなく無事に10ヶ月間終えることができたことです。そして、長期休暇にはアメリカ人の友人とニューヨーク、アトランタに旅行をし、様々な経験をしました。また、メンフィスでは、メンフィスオープン(テニス)の試合を観戦し、錦織圭選手に出会い、サインを頂いたことは今でも忘れられません。留学前に計画していたことを全て達成でき、大変満足しています。

私がこの10ヶ月の留学で得たことは、「度胸」、「チャレンジ精神」、「努力」、「語学力」です。留学当初は慣れない言語、生活、文化などに苦しみましたが、アメリカ人の友人たちのサポートもあり、少しずつ慣れていくことができました。アメリカでは自分自身でアクションを起こさない限り、誰も相手にしてくれないので、失敗を恐れず、積極的にコミュニケーションを図るように心がけました。また、アメリカではボランティア活動にも積極的に参加しました。私は決して器用なタイプではないので、周りに比べ、すぐに語学力は伸びませんでした。決して折れることなく、地道にコツコツと努力し続けた結果、現地の大学で履修した全ての授業でA評価(90点以上)を頂きました。この経験は今後の自分の自信へと繋がると考えています。また、この留学経験で学んだ「度胸」、「チャレンジ精神」、「努力」、「語学力」を活かし、将来、駐在員として海外で働き、企業に貢献できる人材になりたいと考えています。

最後に、これから留学する人へアドバイスを送りたいと思います。皆さんもご存じだとは思いますが、日本人の留学生の多くがぶつかる最初の壁が、自分の意見をはっきりと言えないことです。この背景には、常に「完璧」に話さなければならないという多くの日本人が持つ良くない習慣があると私は考えています。ここでいう「完璧」とは、正しい文法、文章構造、時制などです。実際に、アメリカで生活してみて感じたことは、現地のアメリカ人、他国からの留学生の英語の文法、文章構造はかなりめちゃくちゃであり、ひどい時には、時制すらも曖昧だということでした。しかし、彼らはそのようなことを一切気にせず、話し続けていました。彼らにとって「完璧」という言葉は存在しないのです。「完璧」ということを気にしているのは日本人だけでした。私もその一人だったのかもしれませんが。このことに気づいて以来、私は「完璧さ」を求めず、そして失敗を恐れず、とにかく必死に英語を話すように心がけました。私たち日本人にとって一番必要なことは、「完璧さ」ではなく、「がむしゅらさ」なのかもしれません。もちろん、私たちにとって「完璧」ではっきりと自分の意見を言うことに越したことはありませんが、正直に言って、それは不可能に近いと思います。このことは、これから留学を控える皆さんが現地に留学した時に、おそらく理解して頂けるとは思いますが、留学前の不安を少し

でも取り除ければと思い、ここにアドバイスとして書かせて頂きました。少しでもお役に立てれば幸いです。長くなりましたが、これから留学する皆さんの留學生活が実り多きものとなり、一人でも多くの日本人が海外へ飛び立つチャンスの道しるべを皆さんに作って頂けることを願っています。どうかお身体に気をつけて、日本代表として、頑張ってきてください！